

平成31年及び令和元年における火災の状況

平成31年及び令和元年中の火災の状況について、確定値を取りまとめましたので、その概要をお知らせします。

総出火件数は249件で、平成以降で最も少ない件数となっています。

① 総出火件数は、249件、前年より5件の減少

総出火件数は、249件で、前年より5件減少（1.97%）しています。

火災種別で見ますと、建物火災は8件減少、車両火災が7件増加、その他火災が4件減少しています。

住宅火災件数は77件で、昨年より8件減少しており、過去10年で最も少ない件数となっています。

② 総死者数は、8人、前年より3人減少

火災による総死者数は8人で、前年より3人減少しており、負傷者数は39人で、前年より25人減少しています。

③ 住宅火災による死者（放火自殺を除く）数は3人、前年より4人の減少

住宅火災の死者（放火自殺者を除く。）数は3人で、前年より4人減少しています。このうち65歳以上の高齢者は前年と同数の2人となっています。

④ 出火原因の第1位は「放火（疑い含む）」、第2位は「たばこ」、第3位は「電灯・電話等の配線」です。

総出火件数の249件を出火原因別にみると、「放火（疑い含む）」が44件（17.7%）、次いで「たばこ」が34件（13.7%）、「電灯・電話等の配線」27件（10.8%）の順となっています。

※ 火災予防のポイント

- 1 住宅火災からの逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置しましょう。また、住宅用火災警報器は精密機械ですので、定期的に清掃・点検などを行い正常に作動するか確認しましょう。
- 2 寝具、衣類及びカーテンからの出火を防ぐために、防災品を使用しましょう。
- 3 ほとんどの放火は、ごみ集積所や公園、住居の敷地内などの屋外です。地域ぐるみで放火されない環境づくりに取り組みましょう。
- 4 こんろやストーブからの出火を防ぐために、安全性能の高い燃焼機器を使用しましょう。また、使用方法をしっかりと確認して、正しく使用しましょう。

平成30年と令和元年の火災件数等の比較

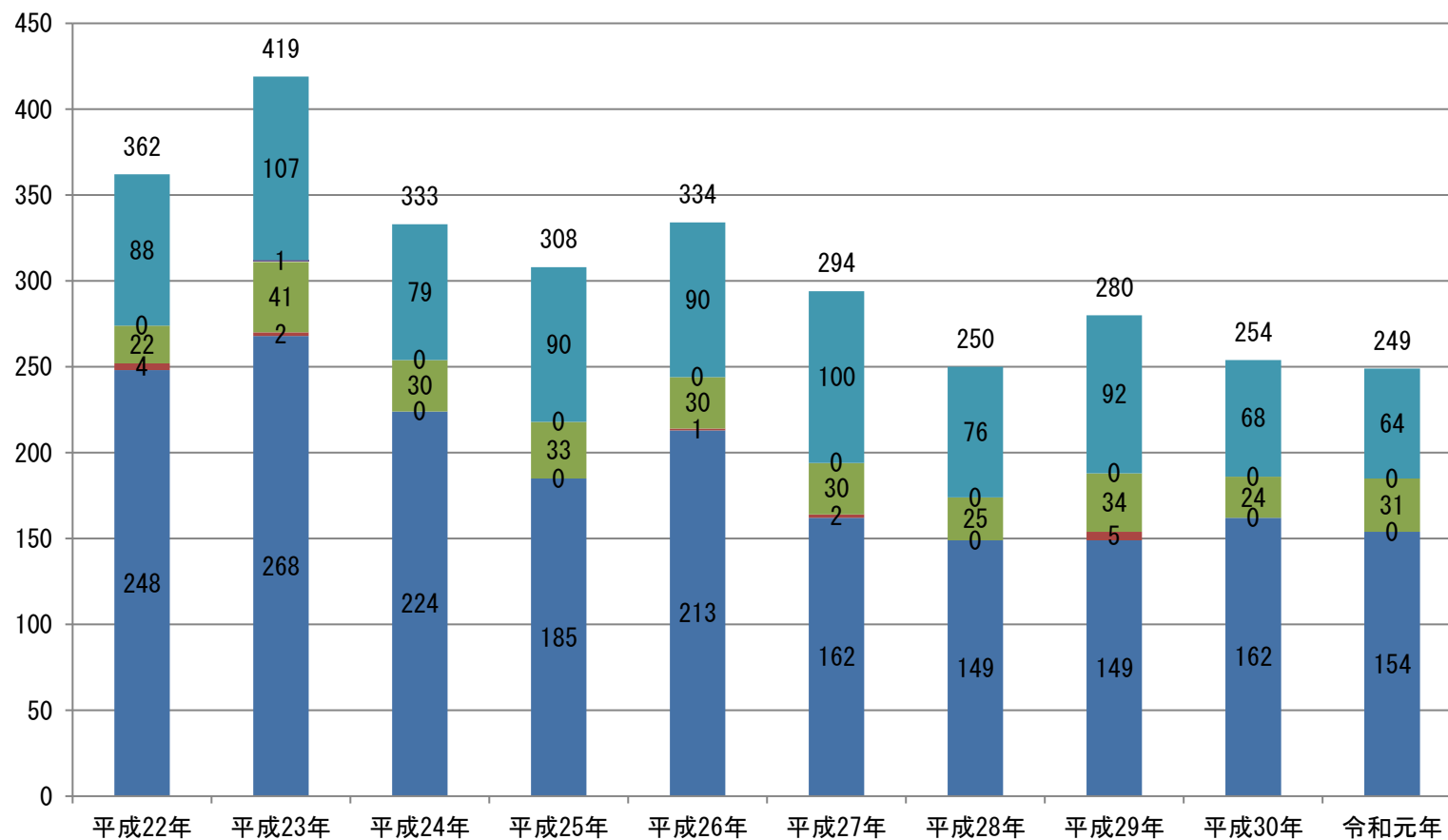
	平成30年	令和元年	前年比	
出火件数	254	249	-5	
建物火災	162	154	-8	
(うち住宅火災)	85	77	-8	
車両火災	24	31	7	
林野火災	0	0	0	
船舶火災	0	0	0	
その他火災	68	64	-4	
火災による死者	11	8	-3	
火災による負傷者	64	39	-25	
住宅火災による死者	7	3	-4	
うち65歳以上の高齢者	2	2	0	
原因別出火件数 (上位5位)※	放火(疑い含む)	40	44	4
	たばこ	26	34	8
	電灯・電話等の配線	40	27	-13
	こんろ	29	23	-6
	電気機器	13	11	-2

※原因別出火件数の順位は令和元年を基準にしています。

※令和元年には平成31年1月～4月を含みます。

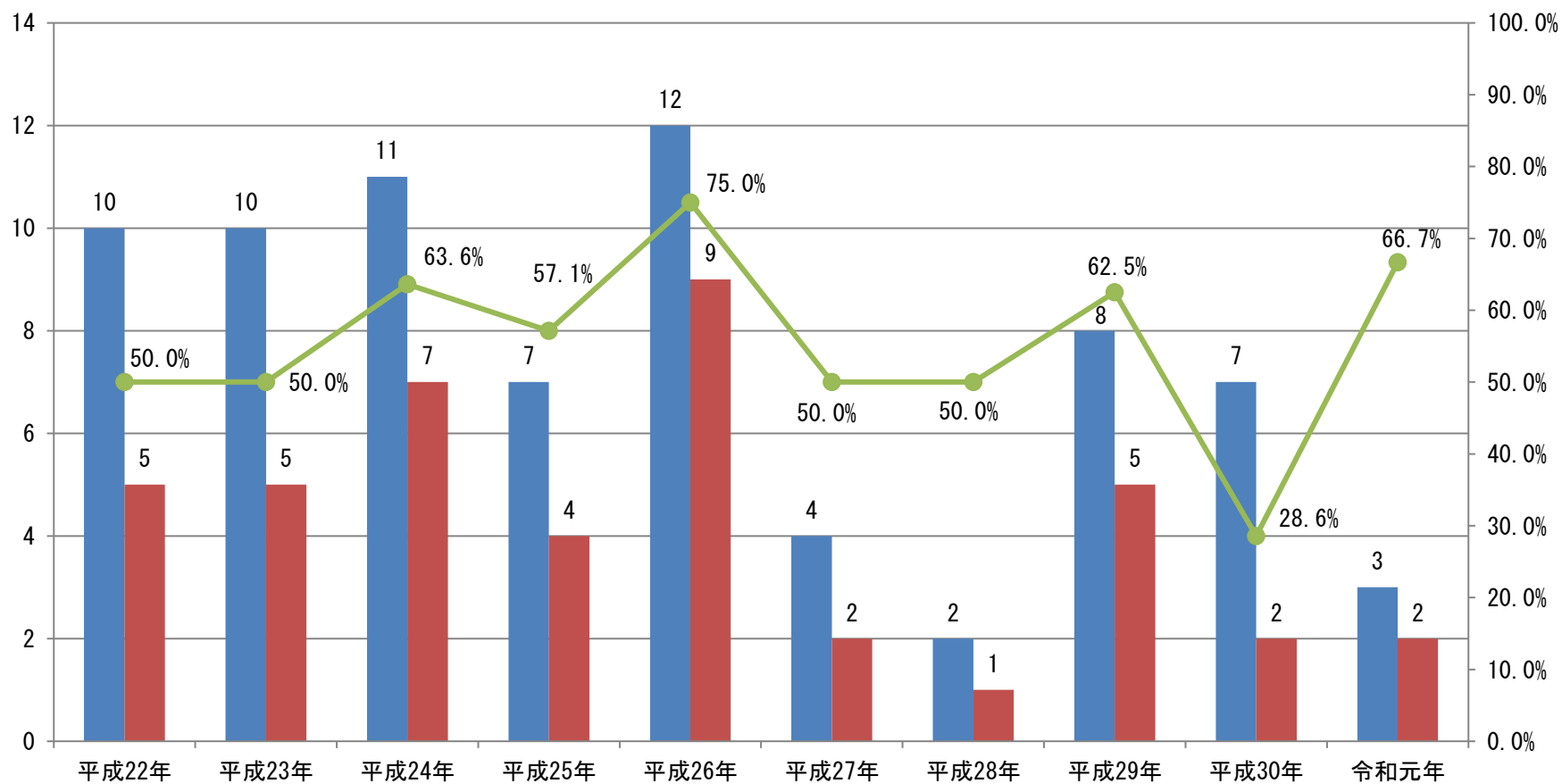
過去10年間の火災の推移

合計 ■ その他火災 ■ 船舶火災 ■ 車両火災 ■ 林野火災 ■ 建物火災



住宅火災における死者数の推移（放火自殺者を除く）

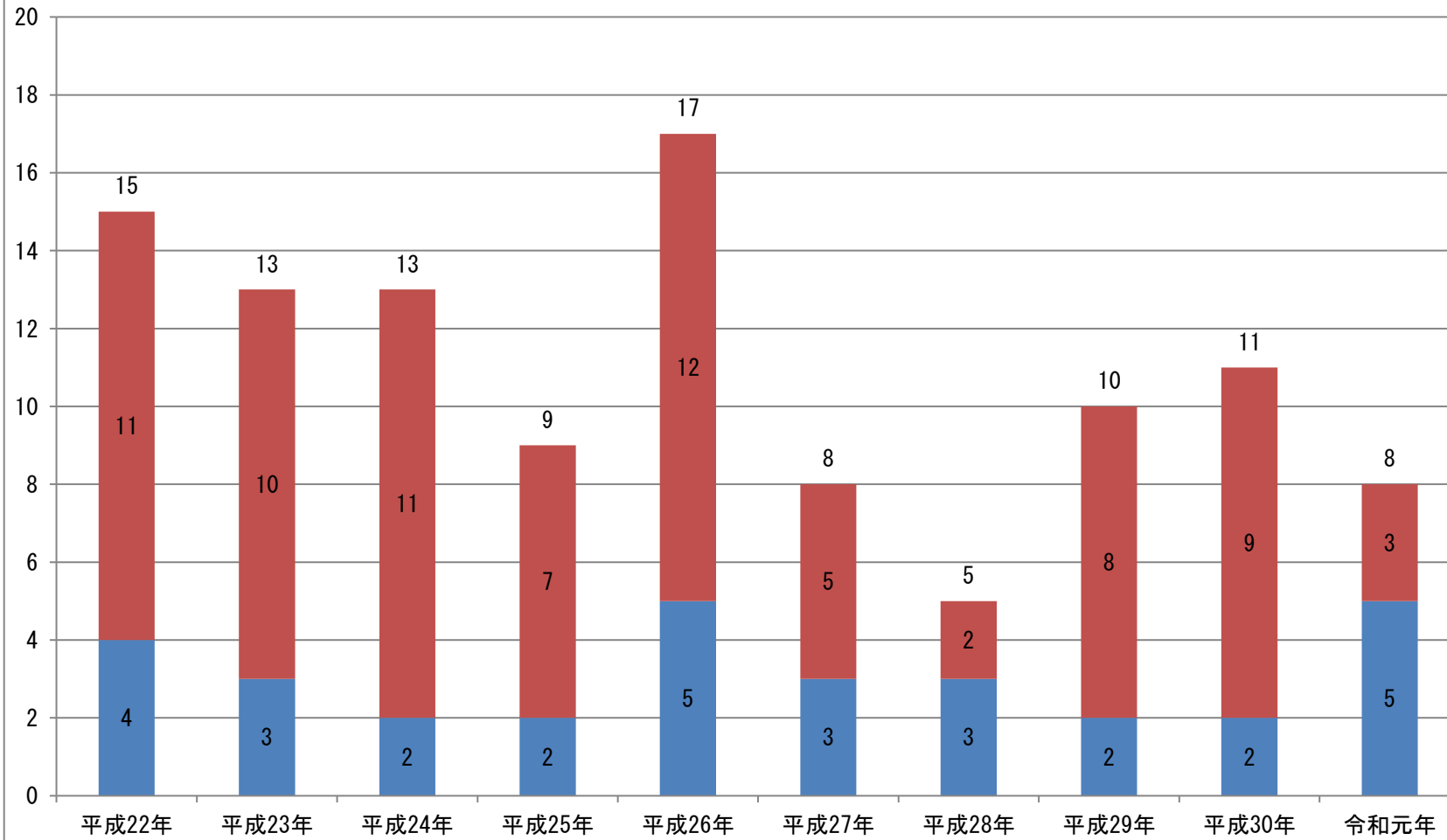
■ 住宅火災による死者数
■ 住宅火災における高齢者（65歳以上）死者数
● 高齢者（65歳以上）死者数の割合（%）



過去10年間の死者数の推移

■ 放火自殺者を除く死者数

■ 放火自殺者数



出火原因の内訳

